

ふるさと応援団木島平会会報

調布市の親子が木島平の夏を満喫

8月14日、調布市の親子34人が来村し、馬曲の郷の家で田舎の夏を過ごしました。この企画は、姉妹都市交流事業として行われ、当日は、村から12人の親子も参加し、ブックススタンド作りやスイカ割りなどをして交流を深めました。

調布市の子どもたちは蛙や虫を捕まえたり、自然の中を走り回ったりと普段出来ない体験に大変喜んでいました。



ふるさと信州のつどい ～長野県人会連合会秋季大会～

長野県人会連合会主催の秋季大会「ふるさと信州のつどい」が10月に東京・日比谷公会堂で開催されます。長野県人会員約2千人の集会ですが、どなたでも参加できますので、ご希望の方は事務局までご連絡ください。(事務局で5人分のチケットを保有しています。)

- 開催日 10月24日(日)
- 場所 東京・日比谷公会堂
- 時間 午前11時30分開場/午後12時30分開演
- 出演者 千昌夫・灘 康次とモダンカンカン・川崎マサ子
- 会費 4千円(弁当、お茶、おみやげ付)
- (事務局)

木島平村役場 総合政策課 電話0269(82)3111

会員のひびく

思い出 尋常小学校の頃

私たちは、昭和15年4月に小学校に入校、当時の教科書は兄弟のお下がりがだった。学校に行っても家でも勉強する雰囲気ではなかった。何事もお国のために優先で他は無視されていた。「節約、節約、欲しがりません。勝つまでは」 「大きくなったら兵隊さん、お国のために命を捧げる」戦死することなど当たり前と思っていた。

3年生の12月8日に太平洋戦争開戦となり、学校も国民学校に変わり戦時体制が厳しくなった。各集落には6年生を団長に小学生による少年団が作られ、集落の野良仕事を手伝ったり、山から木を切り出して、薪作りを手伝ったり、どんど焼きを作るのが少年団の仕事だった。

「一億一心火の玉となって戦う」が合い言葉、私たちが竹槍とかバット位の丸太を用意していた。何のために・・・？ 敵兵と戦うために本気で笑った。6年生になって間もなく私とM君の二人だけが学力テストを受け、雪の消えた校庭で体力テストも受けた。テストの説明は無かったが、幼年兵の招集テストだったことを社会人になってから知りました。

6年生の8月15日にはラジオで玉音放送を聞きました。何もわかりませんが大人が敗戦だと言っていたので子ども心にもがっかりしたことを覚えている。成人の男は軍隊に、女の人も軍需工場に働きに行っており、村には人手がなかったので農繁期は家事の手伝い、学校では授業もなく、よその家で勤労奉仕をしました。稲刈り、イナゴ捕り、落穂拾い、学校で使う薪を高社山まで背負いに行ったり、薬草採りをしました。

終戦後、いろいろ風評が広まっても、木島平は他所に比べれば平穏だったのではないかと思う。風評の中に「男は16歳以上は去勢されて奴隷として何処かに連れて行かれ、女の人は駐留軍の女になって子どもを産み、日本民族は滅びる」というもので怖い思いをした。終戦の日を境に学校では先生も生徒もどうすれば良いのか、夢も希望もない不安の毎日だった。

石川幸雄